

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社光洋エステート		
事業所名	グループホーム日吉		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1-9 (電話) 0144-72-6000		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年8月27日	評価確定日	平成20年9月10日

【情報提供票より】 (20年8月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	5月	10日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤	15人,	非常勤 人, 常勤換算 12.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費670円 暖房費150円(11-4月)	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要 (8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2	要介護2	4		
要介護3	6	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 89.5 歳	最低	81 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田循環器内科、とまこまい脳神経外科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム日吉は、中核都市苫小牧市の郊外の閑静な住宅地に位置する。ゆったりとした敷地に畑を配した広い中庭を擁し、軽い散歩やレクリエーションの用に供されている。平成13年に開設し、平成18年10月に現在の運営者に引き継がれ、昨今、新しい体制が整ったところである。建物もたっぶりスペースをとった造りで、リビングや廊下は車椅子でも楽に動き回れる余裕がある。利用者一人ひとりの生活や思いを大切にす理念が浸透し、利用者は穏やかで落ち着いたたたずまいを見せ、いつも明るい笑い声に包まれている。町内会、老人会、小学校などとの交流も頻繁で地域に溶け込んだ生活を実現している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	一部まだ実行途上の項目もあるが、地元との交流、評価への全職員参加、運営推進会議の発足と定着、夜間浴の検討、玄関ドアの自由開閉、水分確保、など、前回掲げた取り組み項目は誠実、着実に実行、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回は管理者など一部の幹部のみで自己評価を行ったが、今回は全職員が参加して意見を述べ合い、評価をまとめあげた。管理者はじめ、大方の職員は評価の作業を通じて日ごろの業務を振り返って課題を整理し、目標を再認識する格好の機会として活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は今年の5月から本格的に2ヶ月に一度の定例会が軌道に乗った。市職員、地域包括センター担当、町内会会長、老人クラブ会長、民生委員、家族および職員が参加メンバーである。ホームの活動報告、予定、防災対策、研修、外部者向けの相談業務などについて話し合われており、次回には評価についても取り上げる予定である。参加者からも活発な意見が寄せられ、アドバイスを受けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置しているが投書はない。外部の苦情受付機関は書面や掲示で周知している。日ごろから家族との意思疎通に努め、意見や苦情があればいつでも受け容れる姿勢を示している。些細な希望や意見でも率直に受け止めて対応し、全職員で共有するように図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入して、公園掃除、運動会、盆踊りなどの行事に参加している。お祭りではおみこしがホームに寄ってゆく。小学校との交流もあり、写生会ではホームに來訪する。近所の子供が遊びに來たり、トイレを借りに寄ったりする。向かいの教会からもよく人が訪ねてくる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりのペースを大切にし、家庭的な環境の中でみなで支えあい、互いに認め合い、家族ともども安心できる生活を提供する、という内容の理念を掲げているが、地域との交流については触れられていない。	○	地域に溶け込んだ生活の実態はできているが、なお、理念の中にも盛り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットへの掲載と施設内要所への掲示で内外への周知が図られている。カンファレンスなどで折に触れて取り上げられ、職員はこれをよく意識して日ごろの業務の指針としている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、公園掃除、運動会、盆踊りなどの行事に参加している。お祭りではおみこしがホームに寄ってゆく。小学校との交流もあり、写生会ではホームに来訪する。近所の子どもが遊びに来たり、トイレを借りに寄ったりする。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前は管理者など一部の幹部のみで自己評価を行ったが、今回は全職員が参加して意見を述べ合い、評価をまとめあげた。管理者はじめ、大方の職員は評価の作業を通じて日ごろの業務を振り返って課題を整理し、目標を再認識する格好の機会として活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年の5月から本格的に2ヶ月に一度の定例会が軌道に乗った。ホームの活動報告、予定、防災対策、研修、外部者向けの相談業務などについて話し合われている。参加者からも活発な意見が寄せられ、アドバイスを受けている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員が運営推進会議に参加して意見・情報交換をしている。日ごろから日常業務のほかにも市役所を訪問し、相談や情報交換を行い、介護保険課以外の部署ともコンタクトして、行政サービスをホーム運営に活用している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を多く使ったホーム便りを毎月発行し、利用者の生活ぶりやホームの運営内容を報告している。家族来訪時には詳しい報告をし、体調の変化や受診の際など必要に応じて電話で報告している。金銭出納帳のコピーを毎月家族に送付している。	○	職員の異動については家族の関心も高く、特に離職については家族の不安にもつながりやすいので、率直でこまめな報告を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情受付機関は書面や掲示で周知している。日ごろから家族との意思疎通に努め、意見や苦情があればいつでも受け容れる姿勢を示している。些細な希望や意見でも率直に受け止めて対応し、全職員で共有するように図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日ごろから両ユニット間で職員、利用者の交流をして、一体化を図り、異動に備えている。退職した職員がたまに来訪して利用者の寂しさを和らげることがあるが、通常は、退職の際は転勤またはお休み、と説明し、密かに姿を消すことによってダメージを避けるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に計画を立ててはいないが、年2回の苫小牧グループホーム連絡会の研修会、その他勧誘のある研修は職員に紹介して受講を奨励している。参加はグループホーム連絡会の秋の研修を除いて、あくまでも自主参加である。また、毎月カンファレンスの折に職員交代で発表して内部研修を行っている。	○	業務としての研修参加の枠を増やしてゆきたいとの意向なので、是非その実現を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会が同業者の世話人によって運営され、そこで市内の同業者と交流している。年2回の定例研修会に続く交流会で情報交換、相談などが行われている。また、困ったときなど、親しいグループホーム同士で相談しあったりもしている。一般職員の相互訪問、見学も行われている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族による入居の相談の結果を受けて、職員が本人を訪問し、馴染みの関係を作る。事前見学で職員や他の利用者と馴染み、受け容れの雰囲気を作る。入居の当初は他の利用者も含めて、新しい生活に溶け込めるよう、家族とも相談しながら、配慮をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備、片付け、裁縫、買い物、おやつ作りなど得意な分野で力を発揮してもらいながらお互いに助け合う関係を築いている。料理の味付け、畑仕事、様々な風習などでは高齢者の知恵が威力を発揮する。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>時々利用者のアンケートをとって食べ物や外出先などの希望を聞く。テレビや新聞などの話題をきっかけに利用者の思いや希望などを聞き出す工夫をしている。常に本人本位に、という理念に立ち返るようにしている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、家族の希望や受診時の情報、日々の生活における職員からの情報を基にミーティングで話し合い計画作成担当者が作成している。作成した介護計画書は、家族に説明すると共に、利用者へ話し、目標を掲げて生活出来るようにしている。</p>	○	<p>今後、定期的に面会に来ている家族など、出来る範囲で家族にもカンファレンスに参加して貰い、一緒に介護計画を作成していきたい意向なのでその取り組みに期待したい。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常3ヶ月毎の見直しを行っている。利用者の体調の変化や精神面の変化、投薬状況などにより随時計画の見直しを行い、常に現状に即した介護計画を作成して支援を行っている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>今年の9月より、苫小牧日翔病院と医療連携体制を取ることが決定している。入院する事により利用者が不穏になる事があるので、訪問看護を利用して出来るだけ入院回避が出来るように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向によりかかりつけ医の受診も継続する事が出来る。かかりつけ医の往診を受けている利用者もいる。かかりつけ医の受診時、受診内容により職員も家族と同行したり、必要な情報を聞いて来て貰い健康管理に役立てている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、入居時に家族等に説明を行い、重度化した場合や終末期に改めて話し合いをする事を伝えている。体調が変化した時は、入院か事業所で過ごすかについては話し合いを行うようにしている。	○	医療連携の書類説明時に、今後考えられる状況を家族と話し合い、検討して重度化や終末期に向けた書面を作成していきたい意向なので、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要書類は事務所に保管し、夜間は施錠している。個人記録などはスタッフルームに保管しているが目に付かないように配慮している。面会簿は、家族の意向を確認し現在は1冊のノートで継続しているが、常に状況を見て検討し配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ時の水分補給などの1日の流れがあり、利用者に声かけはするが、利用者の意向を尊重して状況に応じて対応している。着替えなどは、利用者のペースで好みの服を選んで貰い、自分で着替えが出来るようにゆったり対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の盛りつけ、味付け、配膳など役割を持って行っている。外食に出かけたり、誕生会などの行事の献立を利用者と一緒に考えて買い物に行っている。職員は、利用者と同じテーブルで食事を取り、楽しく食事出来るように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の午後を入浴時間に行っているが、希望があれば午前や夜間の入浴も可能になっている。畑仕事後などはシャワー浴出来るように声かけしたり、部分浴も随時行っている。	○	現在1週間に2回を目標に入浴を行っているが、季節的に不足していると思うことがあり、今後入浴回数を増やして行きたい意向なので、その取り組みに期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大正琴を弾いたり、カラオケ、訪問に来た子供とのトランプやカルタなど、利用者は楽しみを持って過ごしている。利用者の状況に合わせて、家事や花の手入れをしたり、絵手紙などの講習会に参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1週間に1, 2回、公園や隣の体育館等に散歩に出かけたり、散歩に行けない利用者は、外で日光浴をしながら近隣の子供達との会話を楽しんでいる。冬季は、外食に出かけたり、近くのイルミネーションの見学など可能な限り外出をしている。	○	今後、外出の機会をより一層増やしていきたい意向なので、その取り組みに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、玄関ドアはボタン操作をしないで開閉出来るようにしている。日中は施錠することなく、玄関にチャイムをつけて、利用者が外出した時は職員も一緒に出かけて安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。前回の外部評価を踏まえ、今年は夜間を想定した避難訓練を計画している。	○	運営推進会議で、町内会、家族を含めた連絡体制作りを行い、地域での避難訓練を行う予定なので、その取り組みに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量は1000ccを目標に、摂取が少ない利用者には、好みの物で摂取出来るように配慮している。摂取量を常にチェックして利用者の健康管理を行い、状況に応じて早めに医師に相談している。食材は外部に委託しているため、栄養管理も出来ている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファや畳の部分があり、利用者はそれぞれの好みの場所でくつろいでいる。広い廊下にも椅子が置かれていて、戸外の様子をゆっくり見ることが出来るように配慮されている。廊下には、利用者の絵手紙が飾られ、居間には季節を感じる装飾や花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所が設置されていて、利用者は居室でゆったり洗面する事が出来るようになっている。それぞれの居室には、使い慣れた家具や好みの物が用意されていて、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。